

「新潟市 12 次産業化推進計画(案)」に対する パブリックコメント手続きの実施結果について

「新潟市 12 次産業化推進計画（案）」について、貴重なご意見をお寄せいただき、誠にありがとうございました。

いただいたご意見に対する市の考え方をまとめましたので、結果を公表します。

なお、ご意見の一部については、趣旨を損なわない範囲で要約し掲載させていただきましたので、ご了承ください。

■意見募集期間

平成 27 年 12 月 14 日（月曜）～平成 28 年 1 月 12 日（火曜）

■結果公表日

平成 28 年 2 月 18 日（木曜）

■広報手段

- ・市報にいがた、市ホームページに掲載
- ・市政情報室、ニューフードバレー推進課、広聴相談課、各区役所、各出張所、中央図書館にて資料配布

■ご意見の提出状況、案の修正

- ・意見提出者数：2 名（提出方法：電子メール 2）
- ・意見数：6 件
- ・案の修正：0 件

■結果公表場所

結果は次の場所で閲覧できます。（閉庁日、休館日は除きます）

- ・市政情報室（市役所本館 1 階）
- ・ニューフードバレー推進課（市役所白山浦庁舎 4 階）
- ・広聴相談課（市役所分館 1 階）
- ・各区役所（資料の設置場所は各区地域課へお問い合わせください）
- ・各出張所
- ・中央図書館（ほんぽーと）

■問い合わせ先

新潟市 経済部 ニューフードバレー推進課（市役所白山浦庁舎 4 階）

〒951-8550 新潟市中央区学校町通 1 番町 602 番地 1

電話：025-226-1641 FAX：025-230-0423

E-mail：foodvalley@city.niigata.lg.jp

新潟市12次産業化推進計画(案)に対する意見概要及び市の考え方

No	章	項目	該当頁	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	修正
1	2	2 12次産業化とは	12	「12次産業化」という言葉に違和感を感じる。 【理由】 ・6次産業化から一気に2倍の「12」に飛ぶ理由が分からない ・何かテーマが増えると「13」になるのか？	「12次産業化」とは、これまでの6次産業化の取組みに加え、本市が有する豊富で多様な田園資源を、生活に密着する分野で活用していく取り組みの“総称”になります。 そのため、今後連携先となる新たな分野が追加された場合であっても、13次、14次と増えていくものではありません。	無
2	〃	〃	〃	「12次産業」と名付けた説明がない。	「12次産業化」とは、6次産業化の取組みに加え、本市が有する豊富で多様な田園資源を、生活に密着する分野で活用していく取り組みの“総称”であり、本計画第2章がご指摘の説明に該当するものと考えます。	無
3	〃	〃	〃	田園資源を6つの分野で活用することで「新たな産業」が起こせるのか。 【理由】 ・新たに発生したビジネスは、既存領域の範囲内であり、新しい括りの産業群ではない。	12次産業化は、本市が有する豊富で多様な田園資源を、生活に密着する分野で活用していく新たな取り組みです。 必ずしもご意見にある新しい括りの産業群を創出するものではありませんが、田園資源の活用により、各分野の取り組みの充実や拡大を図り、新たな仕事を生み出すことで、雇用を創出するとともに、安心・安全なまちづくりを目指します。	無
4	〃	〃	〃	「田園資源を活用した健康・安心・安全産業」や「健康・安心・安全産業with田園資源」という言葉の方が適切ではないか。	12次産業化は、田園資源を生活に密着する分野に活かしていくことで、①産業や雇用の創出を図るとともに、②全ての市民が地域への愛着と誇りを持ちながら、健康で生き生きと安心・安全に暮らせるまちづくりを目指すものです。 ご意見の方向性と大きく異なるものではないと思いますので、12次産業化という言葉が、広く理解され定着するよう普及・啓発に努めていきます。	無
5	3	6 交流分野における取組み	47	「交流」だけでなく「交流・観光」としたらどうか。	本計画で位置付ける「交流」には、ご提案いただいた「観光」はもとより、食と農の体験などを通じて、農村(農業者)と都市(消費者)が継続的な繋がりを持つ「関係地づくり」といった概念も含んでいます。 推進計画では、これらの取り組みを一括して「交流」と呼んでおり、この中には「観光」も含まれています。	無
6	〃	1 子育て分野における取組み	14	学校教育を終え、行き場のない若者を生活の根本から受け入れる「住居付多角的経営農園」と呼べるものを現代に顕現させてみるのも良いのではないか。	本市では農業に興味を持つ若者が、それぞれの希望に沿って就農できるよう、平成26年6月に開設した「アグリパーク」において、栽培技術や経営知識を学べる機会を提供するなど、新規就農者の育成支援を進めてきました。 ご提案いただいた「住居付多角的経営農園」についても、行き場のない若者の受け皿として、社会参画や就労訓練の場として活用できる可能性があり、今後、12次産業化の取り組みを推進していく中で、必要に応じて検討していきたいと考えています。	無